

## 日常がなくなる日

年明けと共に起こった能登の地震。この間の大雨による土砂災害。

何かあるたびに何十年に一度の…。過去最高などの言葉を耳にする毎日。

この先どうなってしまうんだろうという不安を抱えながらも未来を生きていく子ども達や孫が、自分が生きてきた時のような環境で育てて欲しいと願い、今自分ができる事を探しています。

珠洲市に災害ボランティアに行った時、地震が起こったのが昨日のようなままの景色が広がっていました。呆然としながらも瓦礫の撤去をひたすらしながら崩れた屋根の所でツバメが巣を作りヒナに餌を運んでいたり、トビが鳴きながら空を旋回し、津波が来たとは思えないような青い穏やかな海が広がっていました。

災害が起こらなければこれが日常だったのに…と思うと自然に涙が出てきました。

地球温暖化防止など言葉にするのは簡単だけど加速を止められないのも事実。

これ以上日常がなくなり悲しいことが少しでも減るように、みんなが本気で考え変わっていく世の中になりますように…

田川(エコビレ指導員)



## ～風だより～

# こうのとりの

第10号  
2024.7.1

越前市エコビレッジ交流センター  
(公財) 日本鳥類保護連盟福井県支部

## 釣糸回収

日本鳥類保護連盟福井県支部 岡部 巴

毎年恒例の釣糸回収を6月3日(月)に、昨年実施した場所とちょっと変えてみよう、今年も河野の海水浴場で実施しました。

支部の会員となって毎回参加しています。最初の頃は、テクノポート三里浜ゾーン(坂井市三国町)、その後、鷹巣海水浴(福井市)、今回、糠(ぬか)海水浴場(南越前町)で、岩とか波消しブロックがあって無理をしないように探し、浮きや疑似餌も見つけることができ中々の収穫だと思っています。海岸によって流れてくるごみの種類も違うことが分かり、場所を変えることも面白いと感じました。

回収後、これまた恒例の研修会と食事会を実施。メンバーの交流も兼ねての釣糸回収は、続けていきたい事業の一つです。



## 編集後記

7月15日(月・祝)に「あさぎり荘」(兵庫県豊岡市城崎)において、「第7回コウノトリの生息を支える市民交流会」(主催:日本コウノトリの会)が開催されることになり、事務局も参加しようと申し込んでいます。

チラシには、「毎日、いろんなことが起こり、多くの壁があります。一つ一つ乗り越えていくために、みんなで集って、鋭気を養いましょう。」とありました。

自然保護、環境保全、里山再生…ことばではどうとでも言えます。実際に行動に移して、活動していきましょうとなると、課題山積。頭の中がモヤモヤ…。豊岡でこのモヤモヤが晴れたらと思っています。次号でご報告します。お楽しみに。これから、暑くなります。どうぞ皆様ご自愛ください。(野村)

越前市エコビレッジ交流センター 【住所】 福井県越前市湯谷町 25-25-2

Tel/fax 0778-28-1123 E-mail [info@ecovilg.jp](mailto:info@ecovilg.jp)

URL <http://www.ecovilg.jp/>



## おめでとうございます

福井県支部のメンバー、堀江照夫さんが、“いきもの環境づくり活動の部”で、令和6年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞されました。堀江さんとは、アベサンショウウオの保全活動やコウノトリの取り組み、「えちぜん環境楽の森づくり」等々、20年来ご一緒させていただいていますが、そのパワーたるや目を見張るものがあります。



同じく、公益財団法人 日本鳥類保護連盟富山県支部が“地域の自然環境保護活動の部”で受賞されていました。皆さんの笑顔が浮かびました。

堀江さん、富山支部の皆さん、本当におめでとうございます。

(野村)

# 越前市坂口地区のコウノトリ情報



ハラハラドキドキさせた今期の繁殖。結局1羽しか孵化しなかったです。(1個しか産卵しなかったのか、いくつか産卵したが1羽しか育ったのかは不明です。)

2021年にはメス3羽、2022年、2023年続けてオス2羽、メス2羽と育て上げ、「坂口は成績いいね～」と言われてきたのに、今年は1羽というのはやはり寂しいです。巣作りの時から変(前号に記載)でした。これが自然界というものと実感しています。

さて、5月20日(月)に足環(J0724)を装着し、その後、オスという事が判明しました。坂口小学校と武生第二中学校坂口分校の皆さんに名前を考えてもらいました。30点の応募があり、エコビレ職員がその中から5点選び、エコビレに来館された方達にいいと思う名前に投票していただきました。

結果、「カナタ」に決まりました。この名前を考えられた理由は、「いつか、大きな羽を広げ、大空の“彼方”まで飛んで行くコウノトリになって欲しいという願いをこめて」だそうです。考えたのは中学生です。遙か彼方まで飛んで行くコウノトリが目浮かぶようです。

【坂口以外の今年の繁殖状況(福井県内)】※いずれも人工巣塔にて

市・町名	個体数	雌雄別
小浜市	4羽	メス2羽・オス2羽
鯖江市	2羽	メス2羽
越前町(八田)	2羽	メス1羽・オス1羽
越前市(安養寺町)	4羽	メス4羽
越前市(大塩町)	2羽	オス2羽



ヒナを残してペアで採餌。「もう巣を離れても大丈夫!」ということ? 6/3

その他、越前市、小浜市の別の人工巣塔にて産卵は確認できましたが、孵化までいきませんでした。来年こそは成功しますように。

※6月25日(火) カナタが無事巣立ちました。

# 自然の厳しさ

日本鳥類保護連盟福井県支部長 林 昌尚

5月初旬、自宅裏山でカワセミの声が頻繁に聞こえるようになりました。

しばらく観察してみると、どうやら赤土の崖で巣作りが始まったようです。早速2階の崖が見える窓際に、鳥観察用の迷彩ネットを張り、驚かさないようにして観察を始めました。実はこの場所では過去にも2012.2013年と連続して巣作りが行われ、無事に子育てが行われたことを観察しています。

11年ぶりの巣作りです。赤土と言ってもかなり硬く、穴掘りはなかなか進みません。約2週間かかってようやく完成、5月17日にオスからメスへエサの受け渡しが行われました。1度受け渡したら終わりかと思いましたが、何と観察しただけで2日間合計6回、1回目は失敗だったので実質は5回行われました。

5月18日~19日にかけて産卵が行われたようです。孵化まで約20日、巣立ちまで約23日ということなので、これからの観察が楽しみです。巣立ったヒナたちが並んで木に止まる様子が観察したいなあ..とっていました。抱卵に入ってから、カワセミの声を聴くぐらいで直接の観察は行っていませんでしたが、孵化予定日の近づいた6月3日、定期的に聞こえていた声が聞こえないなあと思い、崖を見てみると「!?!」巣穴が見えません。何度見ても有りません。どうしたところか?巣穴のあった場所が崩壊しています。恐らく5月28日頃に降った雨で崩壊してしまったのでしょうか。卵は駄目でも親鳥たちは無事だったのでしょうか?心配です。

もともと亀裂のあった崖に雨水がしみ込んで崩壊したのではないかと思います。改めて自然の厳しさを思い知らされました。またいつか巣作りが行われることを楽しみにしています。



エコビレで東大生12名の実習受け入れ(6/6~6/9)をしました。今年で3年目です。

モニタリング調査(2日目)もビオトープ整備(3日目)もやりたかったことですが、最終日、午後からの「成果報告会」は私たちだけ聴くのはもったいない、もっとたくさんの方に聞いて欲しいという願いから、エコビレの講座としてご案内していますが、集客は難しいです。特に第2部で、今回の実習を今後



どのように活かしていくか、という質問に対し、12名の方それぞれ思いを話してくださいました。地元の方には、地域の悩み事、人口減少、高齢化等、リアルに語って頂き、それがまた、学生さんたちに「直接聞くことがないから。」とこの場において良かったという感想が。

3泊4日という短い期間でしたが、中身の濃い活動ができたと思っています。